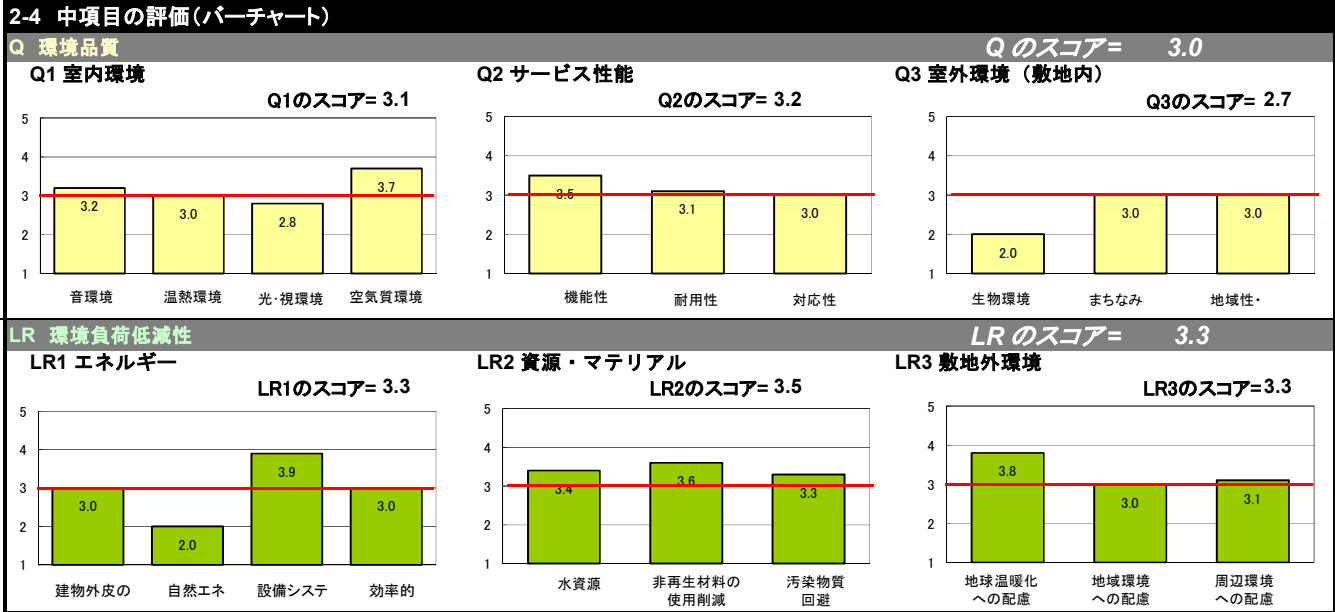
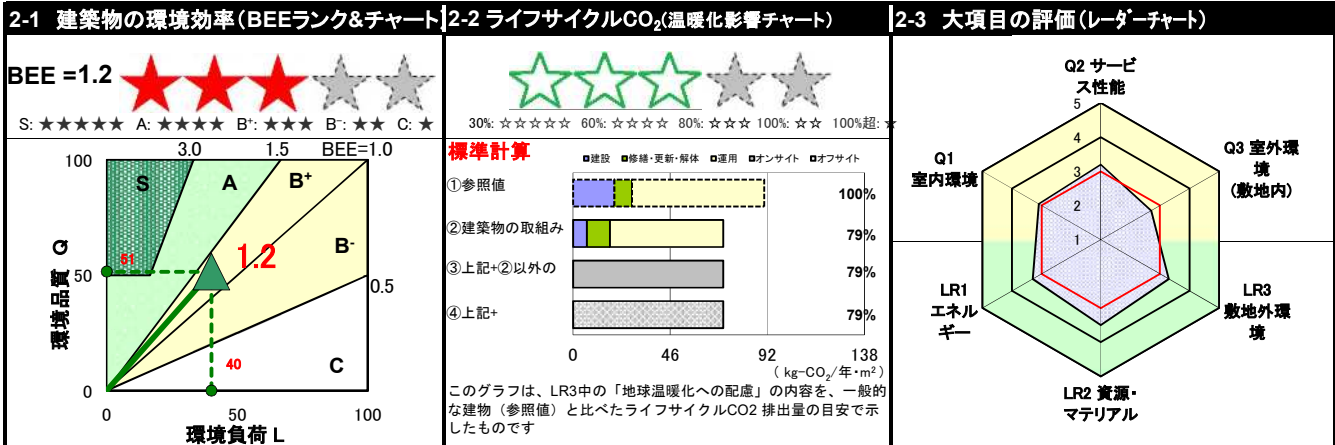


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25001

建築物名称	(仮称)川崎市高津区溝口5丁目計画新築工事
建築主	株式会社丸松商事 代表取締役 松浦 浩司
建築物の所在地	川崎市高津区溝口5丁目826番5、6、830番1、5、6、7の一部、8
設計者氏名、建築士事務所名	山本 孝 株式会社エヌ・エー・エフアーキテクト 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,602.45㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了予定年月	令和9年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎市高津区溝口5丁目計画 新築工事	階数	地上6F
建設地	川崎市高津区溝口5丁目826番5,6,830番1,5,6,7の一部,8	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	73 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年3月25日
敷地面積	957 m ²	作成者	山本 孝
建築面積	526 m ²	確認日	2025年3月25日
延床面積	2,602 m ²	確認者	山本 孝

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	カーテンおよび庇にてグレアを抑制	3.6/5.6	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BEI][BEIm]=0.81	3.4/5.0	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水コマなどに加えて、省水型機器等を採用	3.3/4.7	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3、耐用年数の長い外装材、内装材の採用	0.3/0.5	3.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマなどに加えて、省水型機器等を採用	2.8/4.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐輪、駐車台数を確保、カーシェアリングを導入	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BEI][BEIm]=0.81	3.4/5.0	3.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 3.1

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BEI][BEIm]=0.81	3.4/5.0	3.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											3.0
Q1 室内環境							0.40		-		3.1
1 音環境							3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル						-	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音							3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能						T-2以上	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	-	
2 温熱環境							3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御							3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温						-	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能						W	3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						-	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境							2.0	0.25	3.1	1.00	
3.1 昼光利用							1.8	0.30	2.4	0.40	
1 昼光率						-	1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						W	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策							1.0	0.30	4.0	0.40	
1 昼光制御						W	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						-	3.0	0.15	3.0	0.20	
3.4 照明制御						-	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境							3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策							4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						F☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気							3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量						-	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						Aタイプ1/6以上、Bタイプ1/10以上	-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						-	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-	3.2
1 機能性							3.0	0.40	3.8	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						各住戸にGbitクラスのプロードバンド整備	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画						-	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	-	
3 内装計画						-	3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理							3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						-	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						R 劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔						-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔						R ビニールクロスを採用	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						R	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						R	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						R	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性							2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						-	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						通信手段の多様化等	4.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性										3.0	0.30	3.0	1.00	3.0						
	3.1 空間のゆとり										-	-	3.0	0.50							
	1 階高のゆとり								-		-	-	3.0	0.60							
	2 空間の形状・自由さ								-		-	-	3.0	0.40							
	3.2 荷重のゆとり								-		-	-	3.0	0.50							
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-								
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-								
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-								
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-								
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-								
	5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-								
	6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-								
	Q3 室外環境(敷地内)																	-	0.30	-	-
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-		2.0	0.30	-	-	2.0					
2	まちなみ・景観への配慮				G					-		3.0	0.40	-	-	3.0					
3	地域性・アメニティへの配慮											3.0	0.30	-	-	3.0					
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									-		3.0	0.50	-	-						
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-		3.0	0.50	-	-						
LR 建築物の環境負荷低減性																	-	-	-	3.3	
LR1 エネルギー																	-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制						W		H	-		3.0	0.20	-	-	3.0					
2	自然エネルギー利用						W		H	-		2.0	0.10	-	-	2.0					
3	設備システムの高効率化						W		H	{BEI}[BEIm]=0.81		3.9	0.50	-	-	3.9					
	集合住宅以外の評価											-	-	-	-						
	集合住宅の評価											3.9	1.00	-	-						
4	効率的運用											3.0	0.20	-	-	3.0					
	集合住宅以外の評価											-	-	-	-						
	4.1 モニタリング						W		H	-		-	-	-	-						
	4.2 運用管理体制						W		H	-		-	-	-	-						
	集合住宅の評価											3.0	1.00	-	-						
	4.1 モニタリング						W		H	-		3.0	0.50	-	-						
	4.2 運用管理体制						W		H	-		3.0	0.50	-	-						
LR2 資源・マテリアル																	-	0.30	-	-	3.5
1	水資源保護						W		R			3.4	0.20	-	-	3.4					
	1.1 節水											4.0	0.40	-	-						
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用											3.0	0.60	-	-						
	1 雨水利用システム導入の有無									-		3.0	1.00	-	-						
	2 雑排水等利用システム導入の有無									-		3.0	-	-	-						
2	非再生性資源の使用量削減											3.6	0.60	-	-	3.6					
	2.1 材料使用量の削減						W		R	-		3.0	0.10	-	-						
	2.2 既存建築躯体等の継続使用						W		R	-		3.0	0.20	-	-						
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						W		R	-		3.0	0.20	-	-						
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						W		R	外壁タイル、床断熱材		4.0	0.20	-	-						
	2.5 持続可能な森林から産出された木材						W		R	-		3.0	0.10	-	-						
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						W		R	躯体と仕上げ材が容易に分別可能		5.0	0.20	-	-						
3	汚染物質含有材料の使用回避											3.3	0.20	-	-	3.3					
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									-		3.0	0.30	-	-						
	3.2 フロン・ハロンの回避											3.5	0.70	-	-						
	1 消火剤						W			-		-	-	-	-						
	2 発泡剤(断熱材等)						W			ODP=0かつGWP=10以下		4.0	0.50	-	-						
	3 冷媒						W			-		3.0	0.50	-	-						
LR3 敷地外環境																	-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮						W					ライフサイクルCO2排出量に配慮	3.8	0.33	-	-	3.8				
2	地域環境への配慮											3.0	0.33	-	-	3.0					
	2.1 大気汚染防止									-		3.0	0.25	-	-						
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-		3.0	0.50	-	-						
	2.3 地域インフラへの負荷抑制											3.2	0.25	-	-						
	1 雨水排水負荷低減								R	-		3.0	0.25	-	-						
	2 汚水処理負荷抑制								R	-		3.0	0.25	-	-						
	3 交通負荷抑制								R	駐輪、駐車台数を確保し、カーシェアリングを導入		4.0	0.25	-	-						
	4 廃棄物処理負荷抑制								R	-		3.0	0.25	-	-						
3	周辺環境への配慮											3.1	0.33	-	-	3.1					
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止											3.0	0.40	-	-						
	1 騒音									-		3.0	1.00	-	-						
	2 振動									-		-	-	-	-						
	3 悪臭									-		-	-	-	-						
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制											3.0	0.40	-	-						
	1 風害の抑制									-		3.0	0.70	-	-						
	2 砂塵の抑制									-		-	-	-	-						
	3 日照阻害の抑制									-		3.0	0.30	-	-						
	3.3 光害の抑制											3.7	0.20	-	-						
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									屋外広告照明の設置はない。		4.0	0.70	-	-						
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									-		3.0	0.30	-	-						

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	-	1.0	1.0	2.0	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	1.0	2.0	1.0	-	-	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(窓の日射熱取得率(η) -	U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	外壁 -	床 -
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC -	ηAH -	
昼光率 0.0%				
自然換気有効開口比 0.0%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース .0㎡ /人	病床 .0㎡ /床	シングル .0㎡ ツイン .0㎡
コンセント容量 0.0 VA/㎡		
天井高 2.45 m		
リフレッシュスペース 0.0%	レストスペース 0.0%	
想定耐用年数 75 年		
想定必要間隔 0 年		
想定必要間隔 20 年		
想定必要間隔 0 年		
階高 2.81 m		
壁長さ比率 0.0%		
床荷重 - N/m2		

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 44%	建物緑化指数 17%				
空地率 45%	水平投影面積率 10%	地表面対策面積率 25%	舗装面積率 0%		

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m - 5等級性能等級	等級4 相当				
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 0	採光を満たす住戸数 0			
	通風を満たす教室数 0	通風を満たす住戸数 0			
	太陽光 #REF!	太陽熱等 #REF!	蓄電池 #REF!		
BEI/BEI _m 再エネ - 無 -	オフサイト再エネ有 -	-	-		
一次エネルギー削減 再エネ 19%	無 19%	-			

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%					
特定調達品Eタイプ、断熱材エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-		
使用比率 0.0%					
オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C) 地球温暖化係数(GWP)					

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 128% 棟間隔指標Rw 0.32					
地表面対策面積率 40.0%	屋根面対策面積率 18.0%	外壁面対策面積率 #DIV/0!			
見付面積Sb 352㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 32.47 m	基準高さHb 8.43 m				
緑地 193㎡	水面 ㎡	保水性対策面 ㎡	高反射対策面 ㎡	再帰性反射対策面 ㎡	